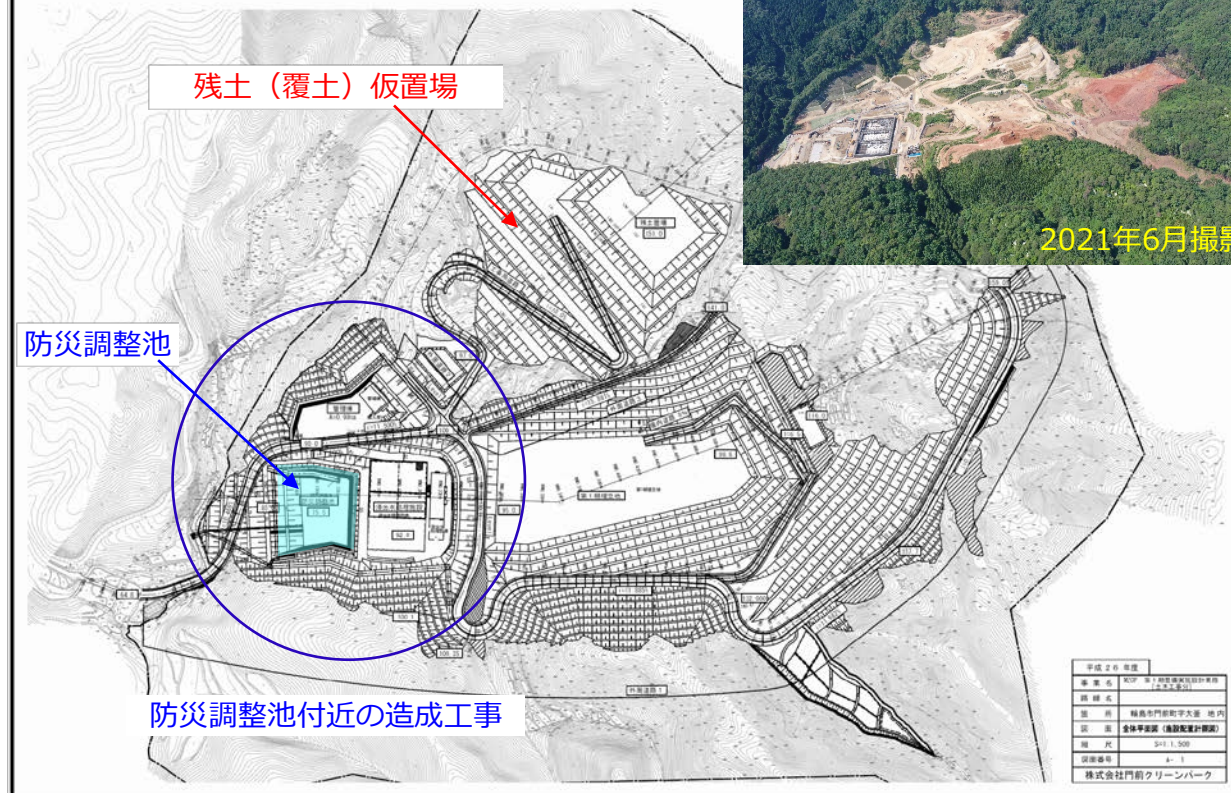


2021年度第1四半期(2021年4月～6月)の施工内容について、お知らせします。主に防災調整池付近や残土（覆土）仮置場の造成工事を実施しております。また、濁水対策は工事の進捗に合わせ継続して実施しています（次頁に濁水対策の概念図を示します）。引き続き、環境に配慮し安全に工事を実施してまいります。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

全体平面図（第1期整備）



○防災調整池の工事

防災調整池の設置工事を進めています。防災調整池の側面には平板ブロックの設置、底面にはコンクリートを打設しています。



工事の様子

○今後の工程

工事期間は3年間で予定しておりましたが、保護対象種とした鳥類への配慮や埋蔵文化財の調査、降雪の影響等により、延伸しております。

主な工程	2018	2019				2020				2021				2022			
	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12
準備工	■																
伐採工事		■						■	■	■	■						
濁水対策工事		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
造成工事			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
防災調整池工事				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	
集排水管工事			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
遮水工事												■	■	■	■	■	■
浸出水処理施設工事										■	■	■	■	■	■	■	■
後片付け等																	■

注：工程は予定であり、工事の進捗により変更されます。

○残土（覆土）仮置場の工事

残土（覆土）仮置場の造成工事を進めています。仮置場の底面には、浸透した雨水を排水するために排水管を敷設しています。



工事の様子

基本的な概念として、現在、工事区域に降った雨は、沈砂池（防災調整池含む）に一旦貯留し、濁水処理装置を経由したうえで、深谷川に放流しています。

※現在築造している防災調整池は、放流口を鉄板で閉塞していますので、工事中の濁水は貯留可能な状態となっています

本工事では、降雨時における濁水対策として防災調整池（総容量35,000m³）の築造を優先し、降雨時の沈砂池として兼用する計画です。防災調整池の整備は、盛土材に適した土が採取できなかったこと等、現場の諸条件で遅れが生じていることから、防災調整池の完成までの間の対応として、仮設沈砂池を増設し、（2021.6月末 現在 計約44,600m³ ※防災調整池の仮設堰堤部分を除く）、さらに濁水処理装置を増設（3機合計で1日6,700m³の処理能力）することにより、濁水対策の拡充を図っています。

濁水処理対策（概念図）

